部活動の地域移行・展開に向けて

－ 北空知広域連携による子どもたちの多様な活動機会の創出－

令和7年4月

沼田町教育委員会

部活動の地域移行とは？

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するもの

※多様な主体

地方公共団体、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団
スポーツ協会、競技団体、文化芸術団体等…

なぜ地域移行？

これまで、中学校年代の主なスポーツ・文化芸術活動先であった**学校の部活動**

少子化の影響により、学校単位での部活動実施が困難

・特に**北海道過疎地域（沼田町含む北空知管内も）→ 全国よりも少子化が深刻。**
（中学校生徒数はピーク時（1986年）に比べ、半分以下。）
・他地域との合同実施や、**部員減少による廃部。**
（道内中学校の部活動数は2015年に比べ、600部以上減少。）

このような状況を受け、国は**令和５年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に地域の活動へ移行**する方針を示す。

学校部活動の課題

〇やりたい部活動が自分の中学校にない

〇専門性や意思にかかわらず教師が顧問を務めている指導体制

住んでいる地域によって体験格差が生じている

目指す姿

〇部活動の地域移行は、将来にわたって子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保することが大きな目的。

〇地域のスポーツ・文化芸術活動を構築していくということは、「どんな地域にしたいか」「地域の子どもたちにどんなスポーツ・文化芸術機会を提供したいか」という観点から検討を進めていくことが重要。

各地域において、子どもたちのスポーツ・
文化芸術環境の再構築が必要！

地域移行の課題

①指導人材の不足

教員から地域の指導者へ

・専門的な指導を行える人材が不足
・人口減少、関係団体の高齢化
・様々な種目への対応

・指導者の発掘や養成が必要
・ICT機器活用による遠隔指導の可能性

②運営財源

部費から会費へ

・運営主体の財源不足
・国からの支援がいつまで続くかは不明
・受益者負担による家庭への負担

・「家庭所得による機会格差」が生じないような財政的支援
・企業からの協賛等を活用した運営財源確保

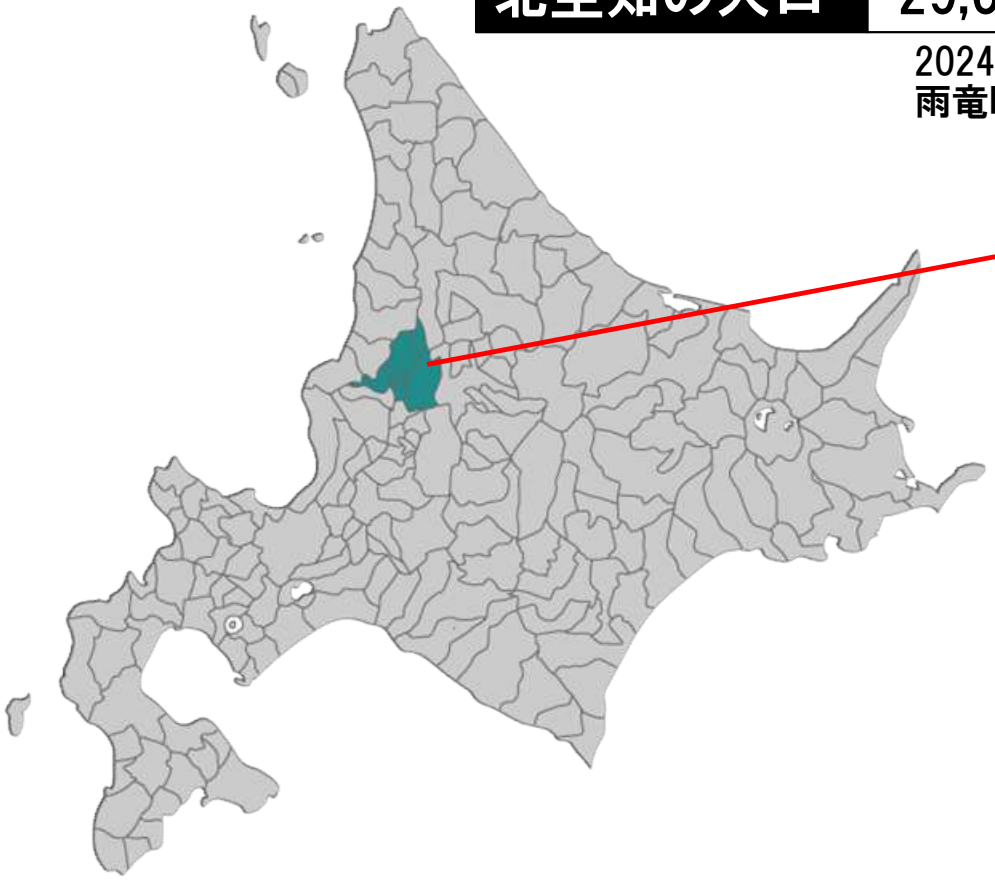
③移動手段

学校から地域の活動場所へ

・活動場所までの移動手段
・バス、タクシー等の運行が必要

・運行財源の確保
・地域における交通機関整備の政策とセットでの検討

北空知の現状



北空知の人口	29,685人

2024.9.1現在
雨竜町含む

北空知1市5町の小・中学校

2024.5.1現在（人口は2024.9.1現在）

沼田町人口 2,787人

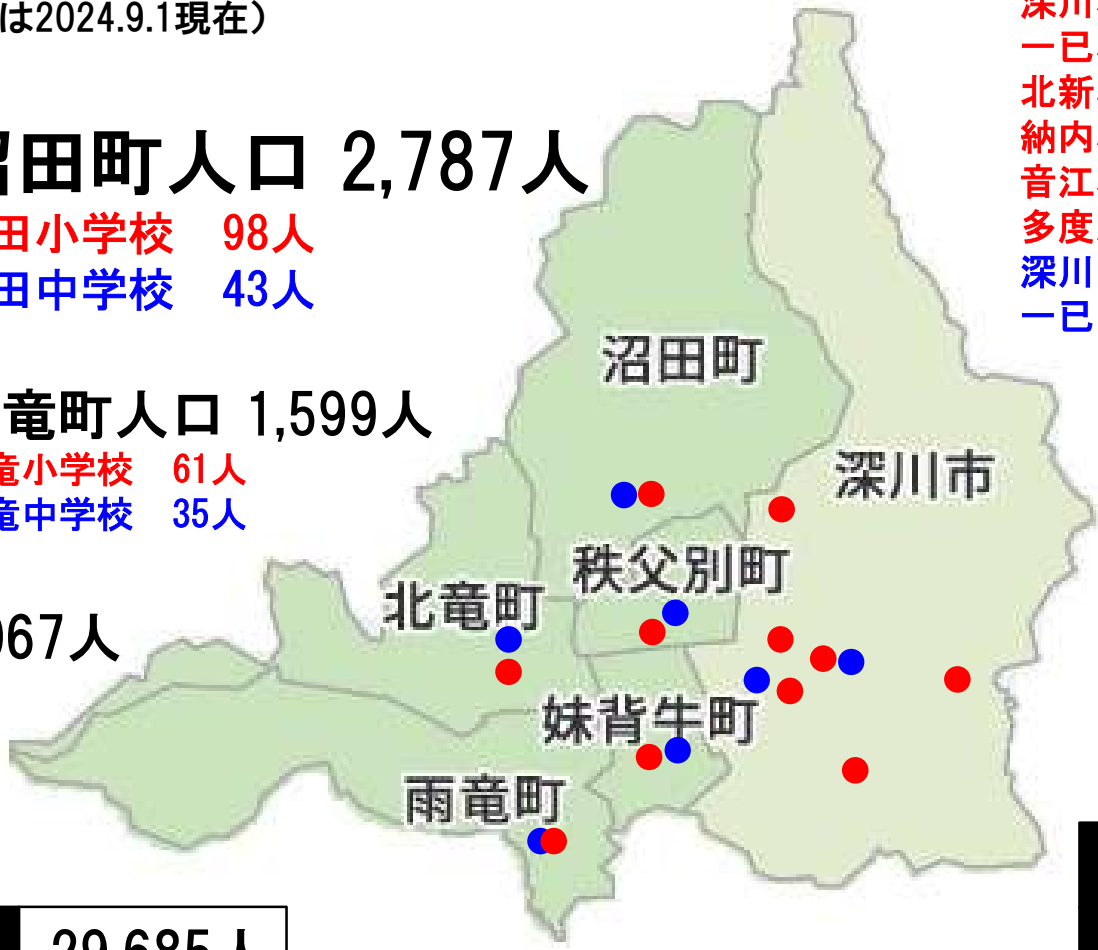
沼田小学校　98人
沼田中学校　43人

北竜町人口 1,599人

真竜小学校　61人
北竜中学校　35人

雨竜町人口 2,067人

雨竜小学校　85人
雨竜中学校　54人



深川市人口 18,437人

深川小学校　223人
一已小学校　295人
北新小学校　28人
納内小学校　48人
音江小学校　59人
多度志小学校　17人　小学校計　670人
深川中学校　137人
一已中学校　198人　中学校計　335人

秩父別町人口 2,199人

秩父別小学校　100人
秩父別中学校　37人

妹背牛町人口 2,596人

妹背牛小学校　71人
妹背牛中学校　59人

北空知の人口	29,685人

北空知小学生	1,085人
北空知中学生	563人

中学生の部活動加入状況

2024.5.1現在　非常設の部活動、クラブ化を除く

沼田中学校　22／43人中　51.2%

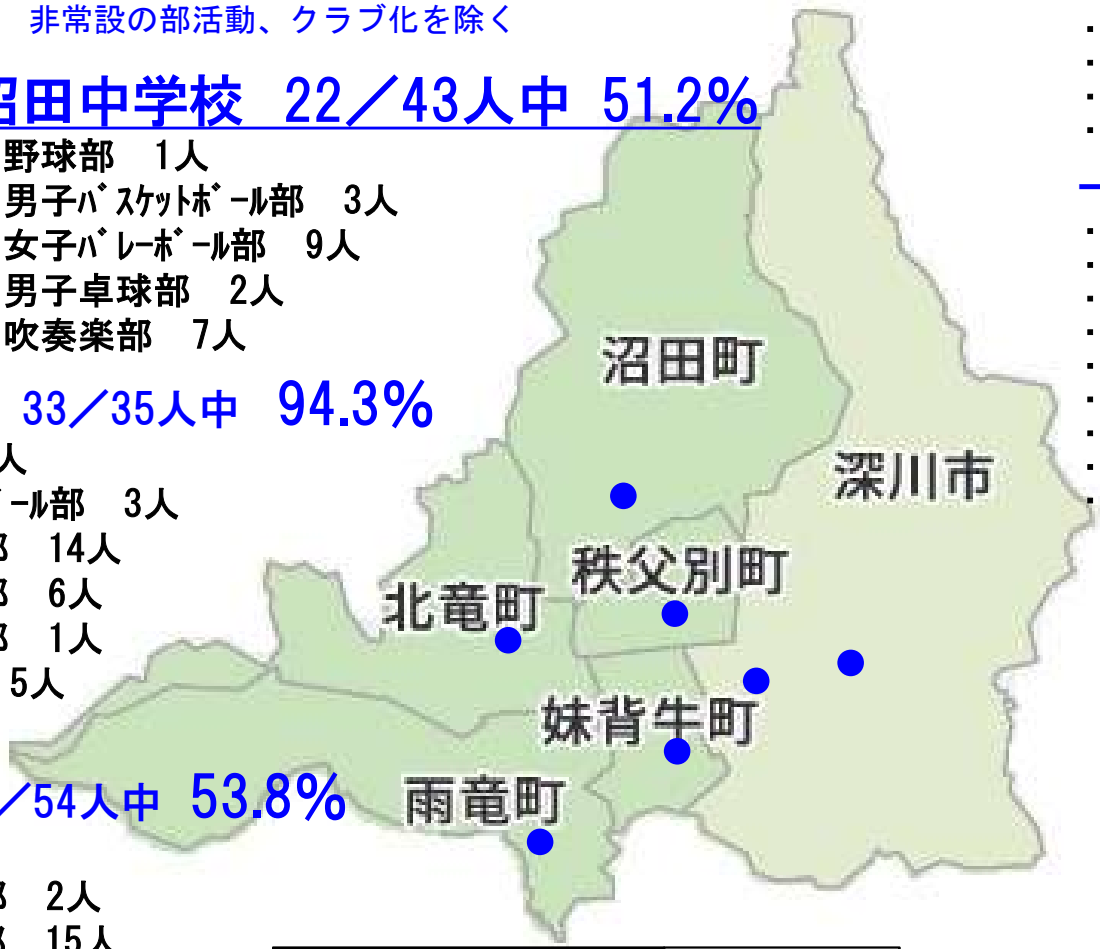
- 野球部　1人
- 男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　3人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　9人
- 男子卓球部　2人
- 吹奏楽部　7人

北竜中学校　33／35人中　94.3%

- 野球部　4人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　3人
- 男子卓球部　14人
- 女子卓球部　6人
- 女子野球部　1人
- 吹奏楽部　5人

雨竜中学校　29／54人中　53.8%

- 野球部　2人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　2人
- ソフトテニス部　15人
- 吹奏楽部　10人



北空知部活動　404人

深川中学校　102人／137人中　74.5%

- 野球部　17人
- 男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　12人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　9人
- 男子卓球部　14人　女子卓球部　8人
- 吹奏楽部　29人
- 美術部　13人

一已中学校　165人／198人中　83.3%

- 野球部　23人
- 男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　8人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　17人
- 男子卓球部　8人
- 女子卓球部　9人
- 吹奏楽部　39人
- バドミントン部　31人
- 吹奏楽部　30人
- 文化部　12人

秩父別中学校　23／37人中　62.2%

- 野球部　6人
- 男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　2人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　1人
- 吹奏楽部　14人

妹背牛中学校　30／59人中　50.8%

- 野球部　5人
- 男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　11人
- 女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　2人
- 女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　6人
- 吹奏楽部　6人

合同部活動の状況

2024.5.1現在　★印は合同

沼田中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　1人
★男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（妹秩沼）　3人
★女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部（雨沼）　9人
・男子卓球部　2人
★吹奏楽部（北沼）　7人

北竜中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　4人
★女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部（深妹北）　3人
・男子卓球部　14人
・女子卓球部　6人
★女子野球部（空知）　1人
★吹奏楽部（北沼）　5人

雨竜中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　2人
★女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部（雨沼）　2人
・ソフトテニス部　15人
・吹奏楽部　10人

北空知部活動　404人

深川中学校

・野球部　16人
・男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　14人
★女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部（深妹北）　10人
・男子卓球部　17人
・吹奏楽部　39人
・美術部　13人

一已中学校

・野球部　23人
・男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部　8人
・女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　17人
・男子卓球部　8人
・女子卓球部　9人
・吹奏楽部　39人
・バドミントン部　31人
・吹奏楽部　30人
・文化部　12人

秩父別中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　6人
★男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（妹秩沼）　2人
・女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部　1人
・吹奏楽部　14人

妹背牛中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　5人
★男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（妹秩沼）　11人
★女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部（妹滝）　2人
★女子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部（深妹北）　6人
・吹奏楽部　6人

合同部活動の拠点

2024.5.1現在　※平日は自校で活動することが基本

沼田中学校

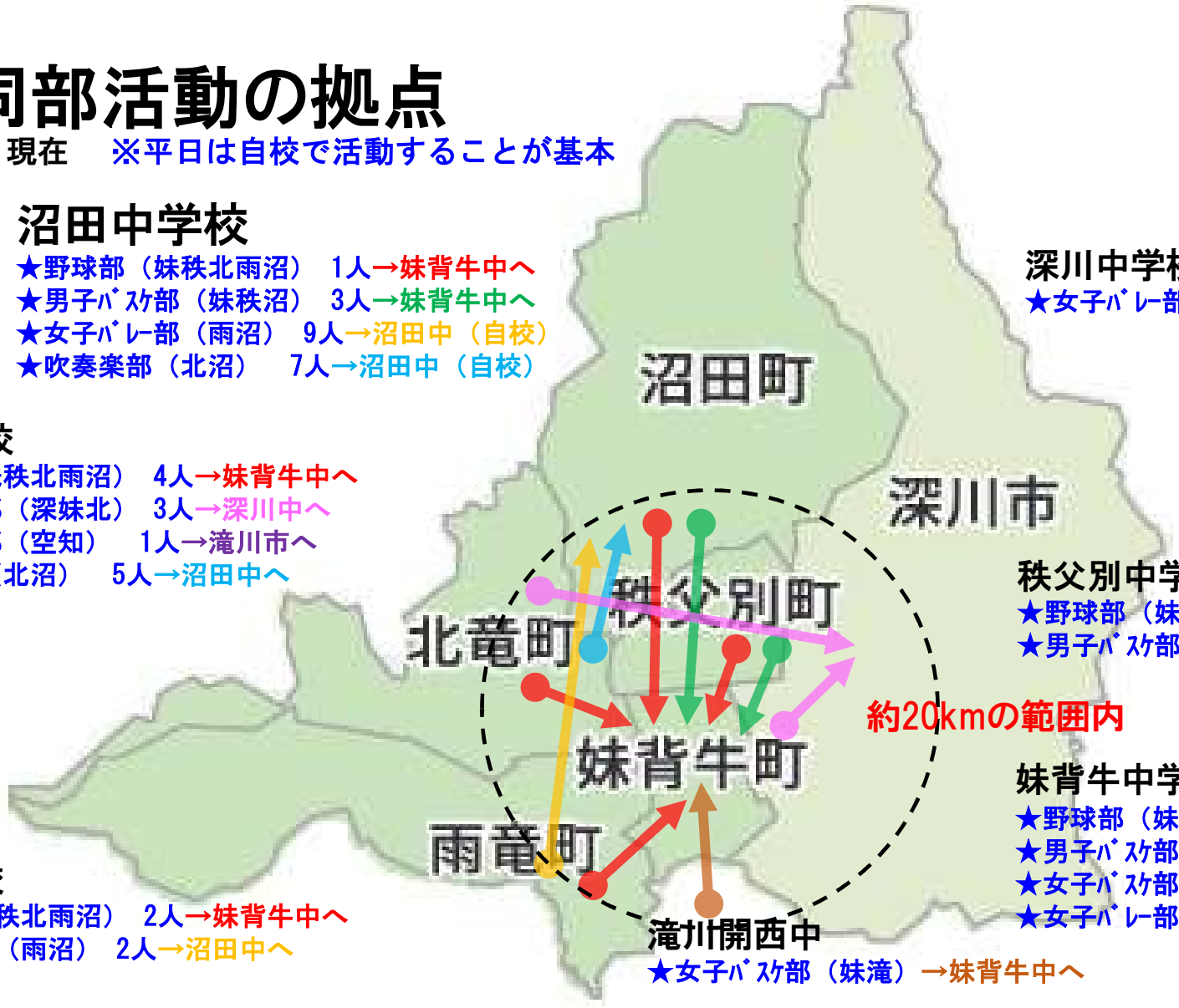
★野球部（妹秩北雨沼）　1人→妹背牛中へ
★男子ﾊﾞｽｹ部（妹秩沼）　3人→妹背牛中へ
★女子ﾊﾞﾚｰ部（雨沼）　9人→沼田中（自校）
★吹奏楽部（北沼）　7人→沼田中（自校）

北竜中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　4人→妹背牛中へ
★女子ﾊﾞﾚｰ部（深妹北）　3人→深川中へ
★女子野球部（空知）　1人→滝川市へ
★吹奏楽部（北沼）　5人→沼田中へ

雨竜中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　2人→妹背牛中へ
★女子ﾊﾞﾚｰ部（雨沼）　2人→沼田中へ



深川中学校

★女子ﾊﾞﾚｰ部（深妹北）　10人→深川中（自校）

秩父別中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　6人→妹背牛中へ
★男子ﾊﾞｽｹ部（妹秩沼）　2人→妹背牛中へ

妹背牛中学校

★野球部（妹秩北雨沼）　5人→妹背牛中（自校）
★男子ﾊﾞｽｹ部（妹秩沼）　11人→妹背牛中（自校）
★女子ﾊﾞｽｹ部（妹滝）　2人→妹背牛中（自校）
★女子ﾊﾞﾚｰ部（深妹北）　6人→深川中へ

滝川開西中

★女子ﾊﾞｽｹ部（妹滝）→妹背牛中へ

中学校部活動（運動部・文化部）に関するアンケート結果

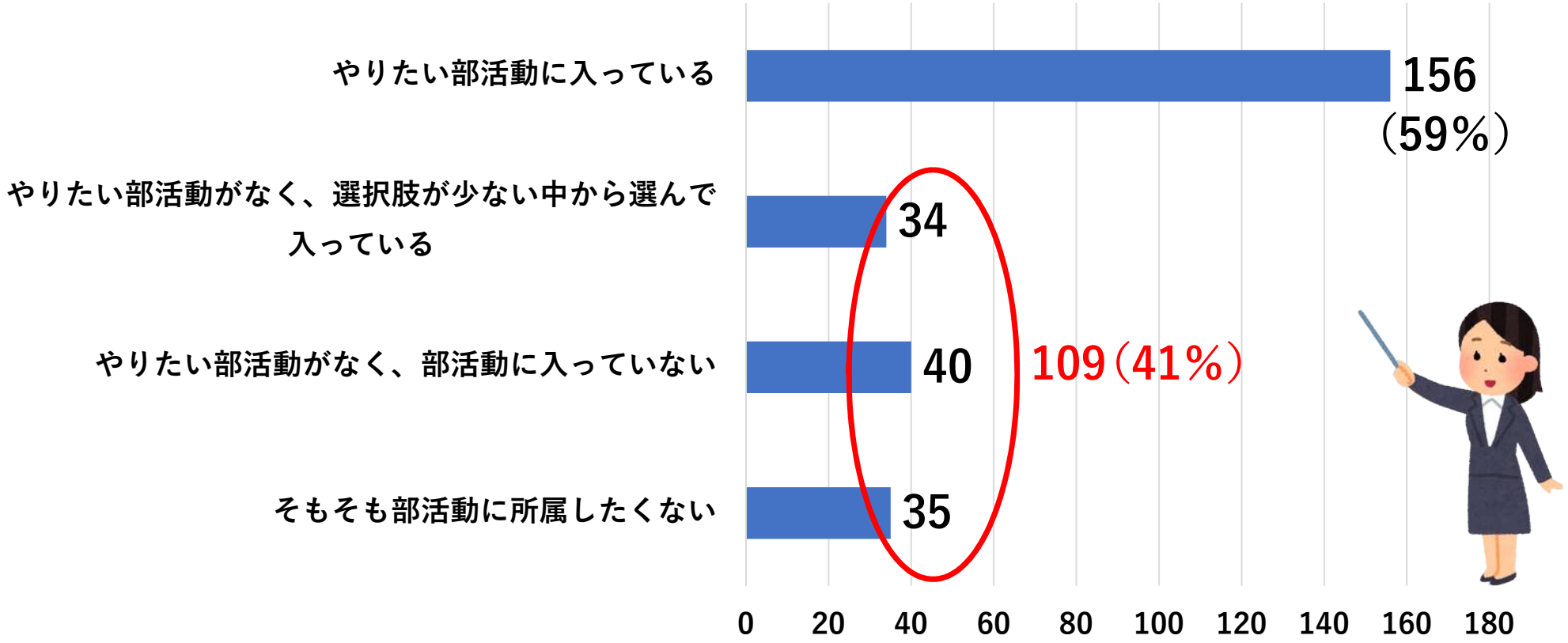
2024.5～6月調査

北空知圏振興協議会 教育部会

（深川市・沼田町・秩父別町・妹背牛町・北竜町・雨竜町）

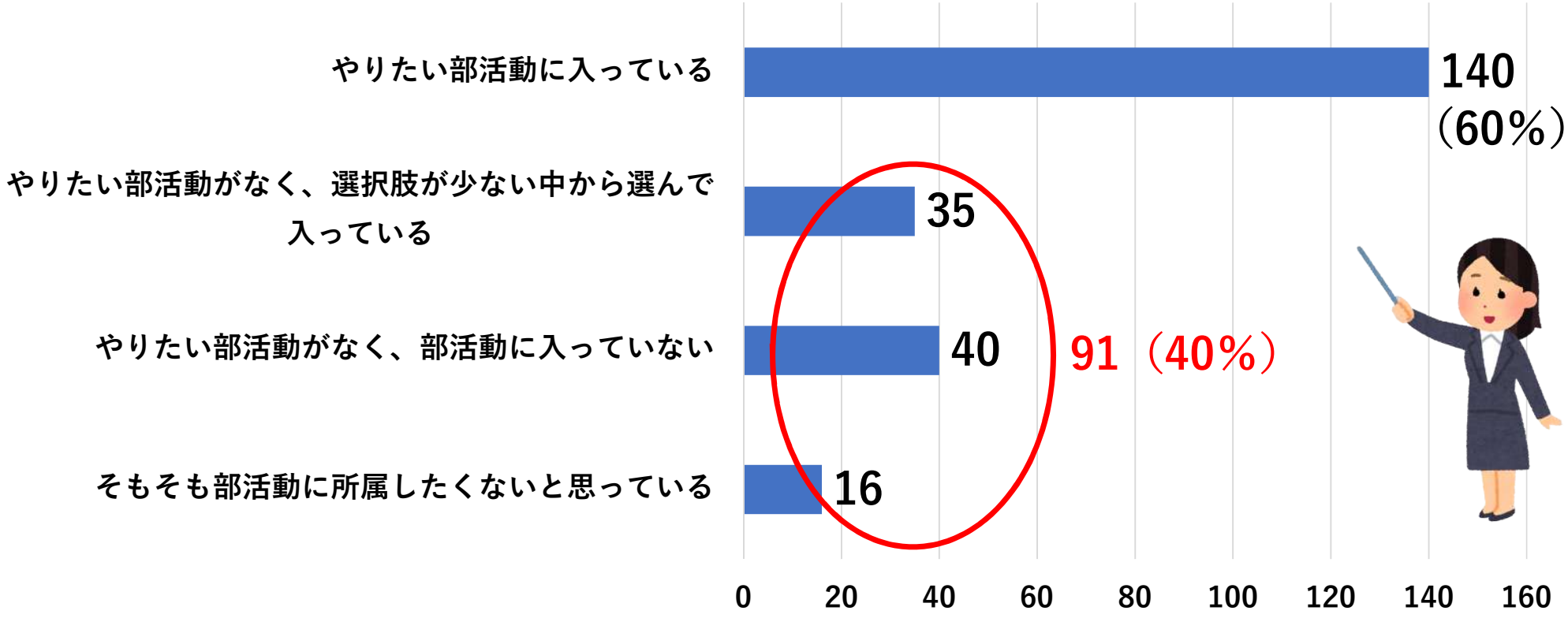
■現在、やりたい部活動に所属していますか。

（中学生）



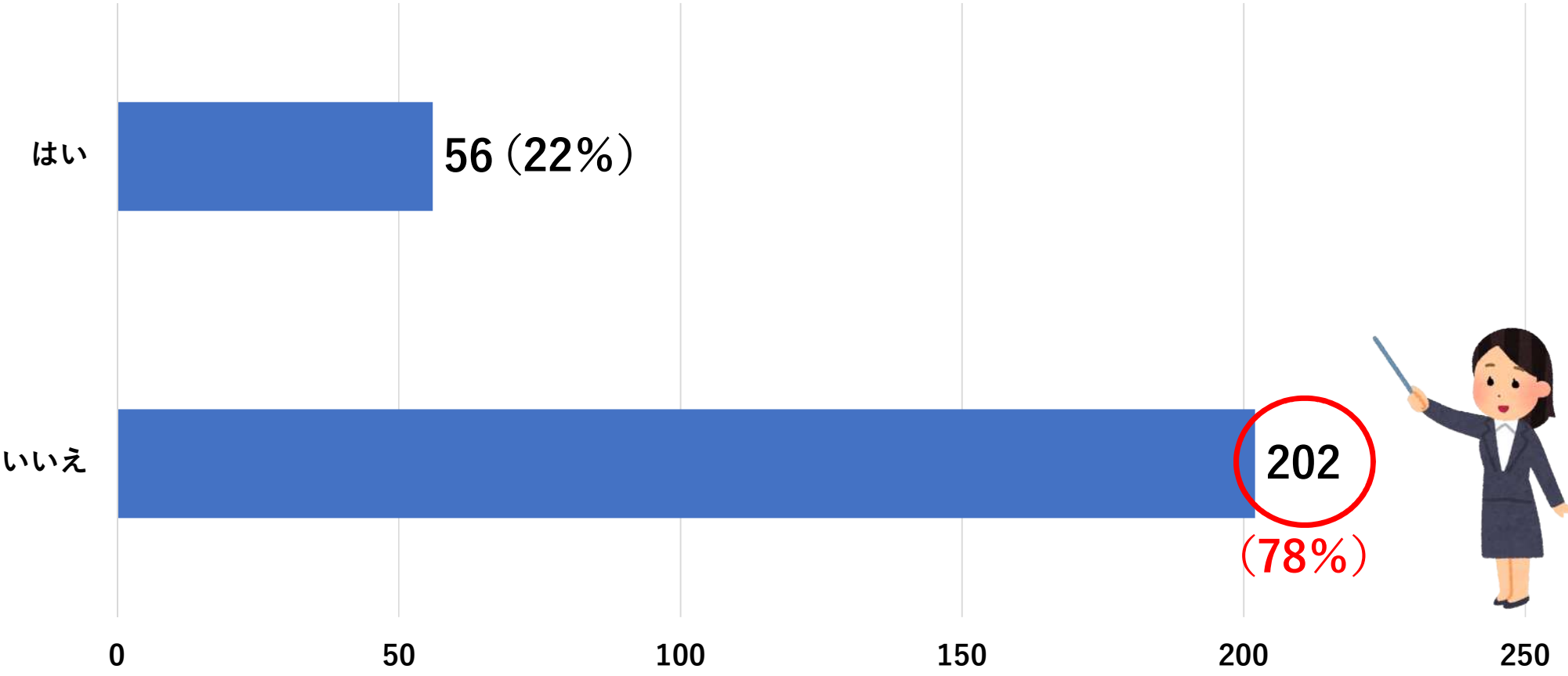
■お子さんは現在、やりたい部活動に所属していますか。

（保護者）



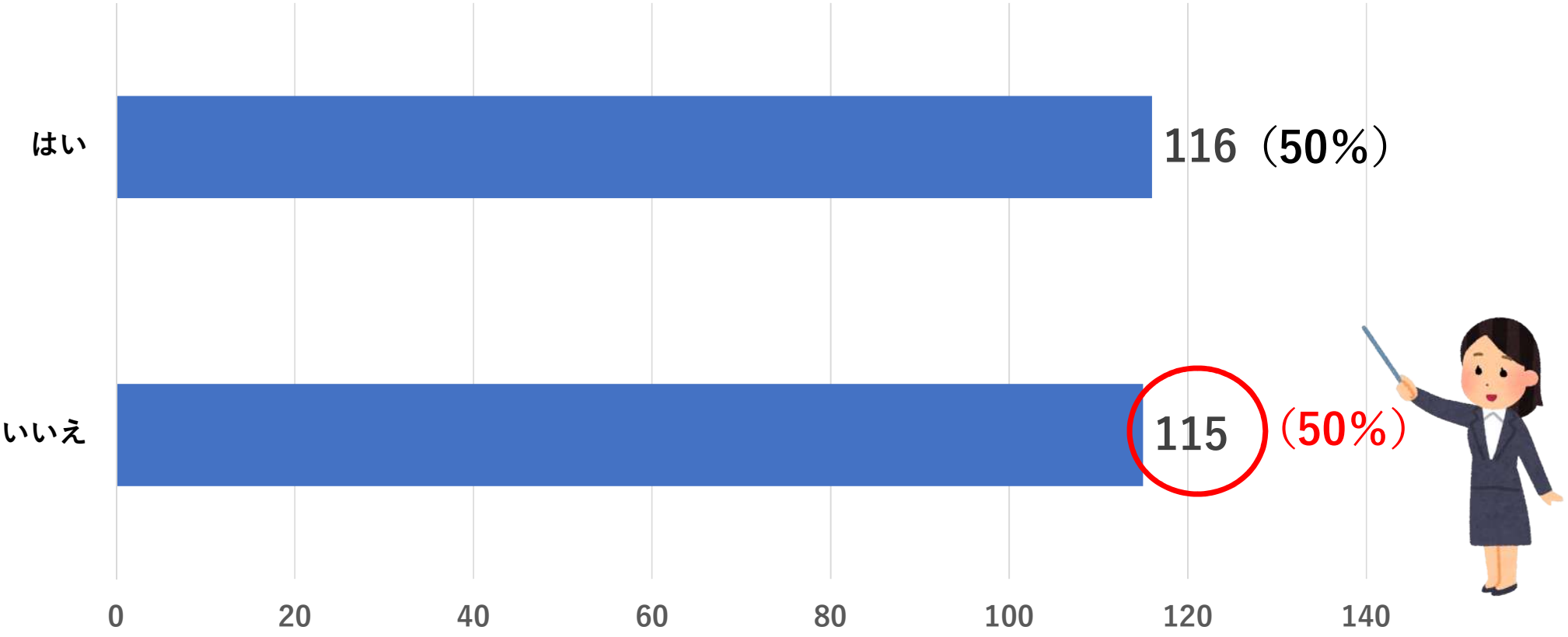
■北空知近隣の他校で自分がやりたい（やってみたい）部活動があったら、
その学校に通って活動（所属）してみたいですか。

（中学生）



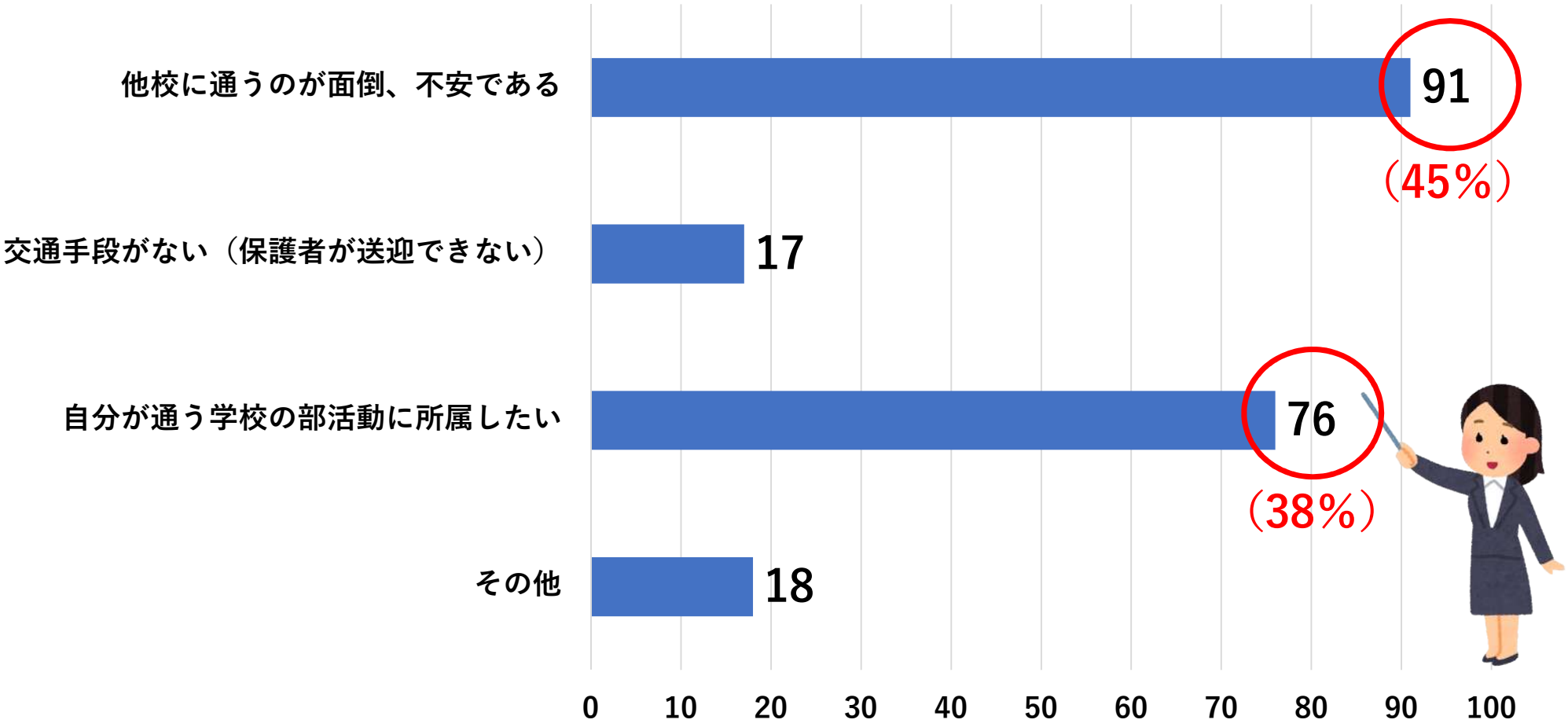
■北空知近隣の他校で、お子さんがやりたい（やってみたい）部活動があれば、その学校に通って活動（所属）させたいですか。

（保護者）



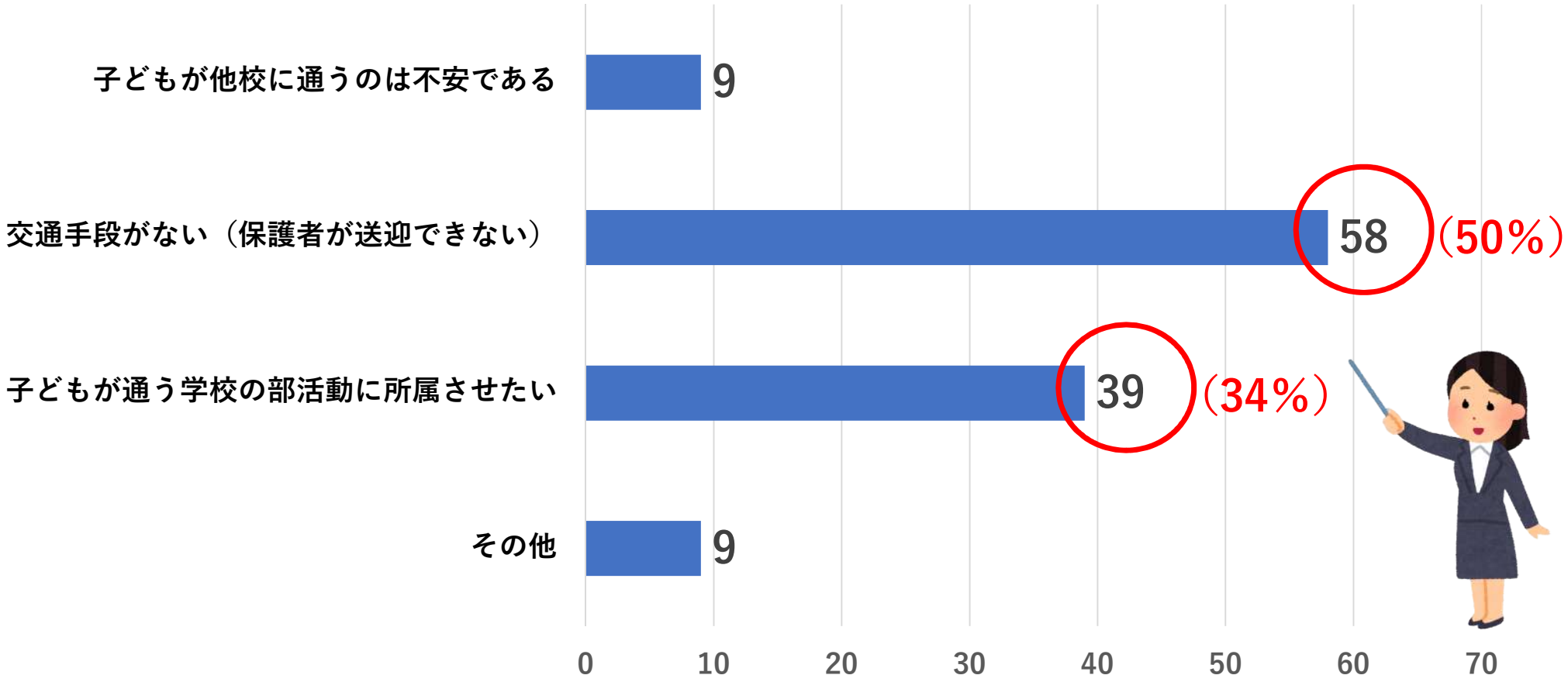
■前問で「いいえ」と答えた理由は何ですか。

（中学生）

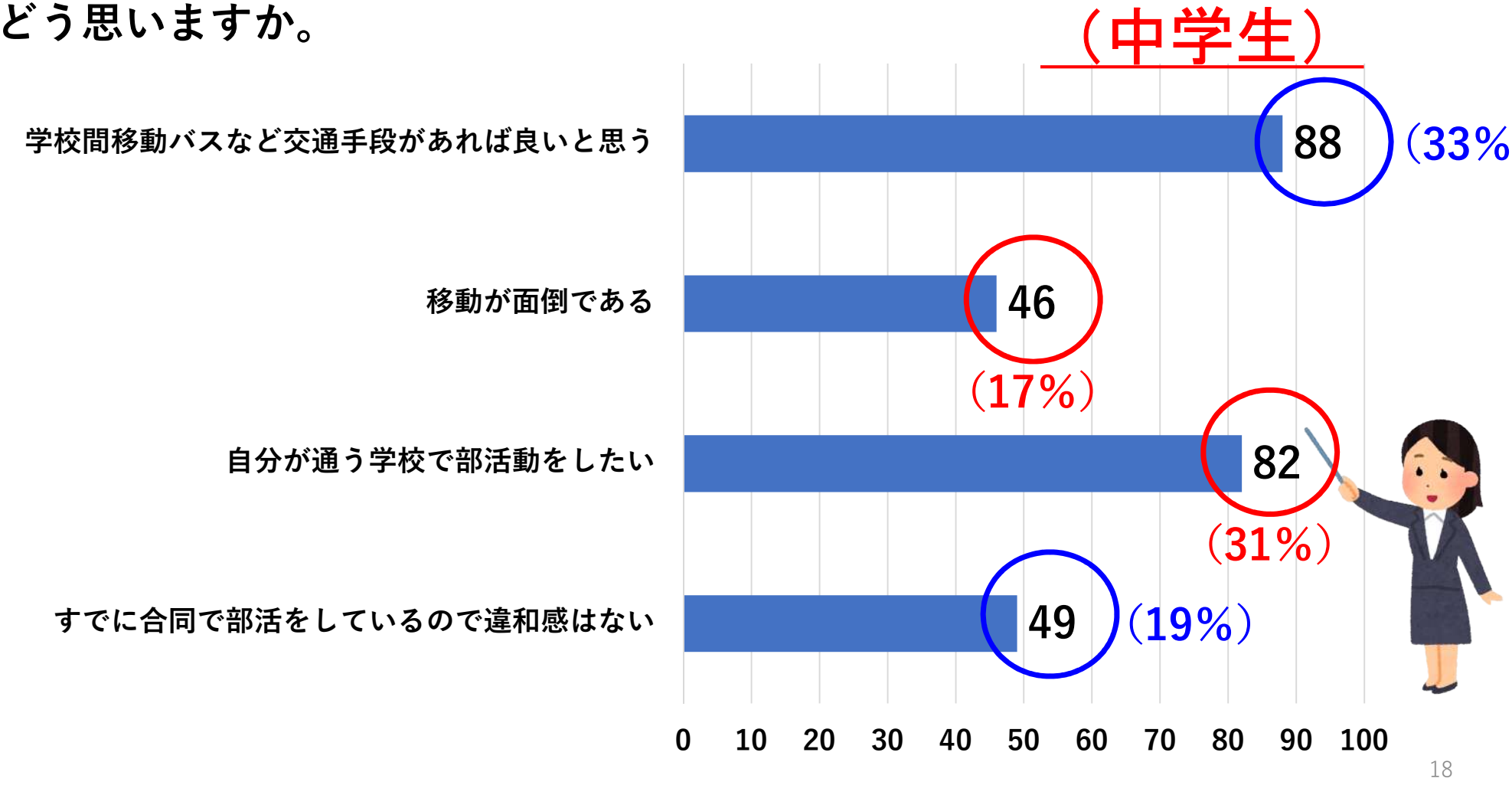


■前問で「いいえ」と答えた理由は何ですか。

（保護者）

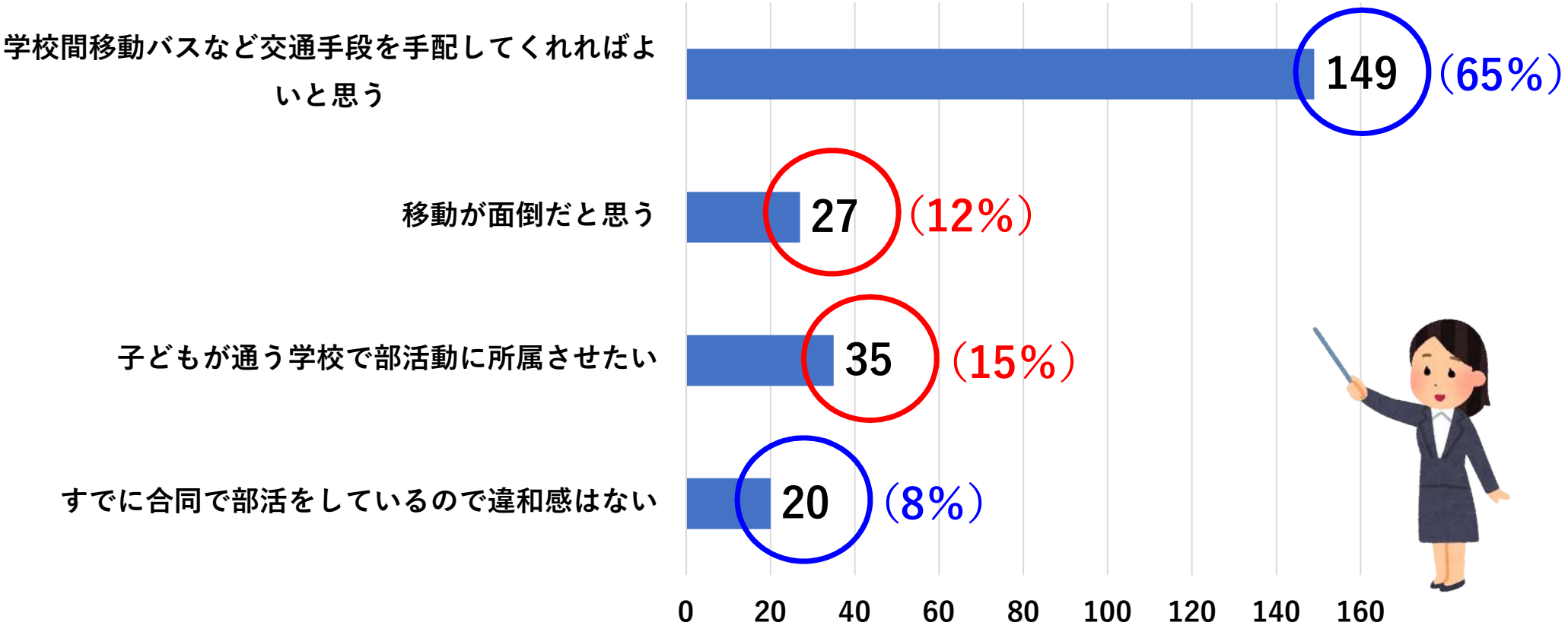


■例えば、北空知管内の学校で部活動の拠点を、種目ごとに分けることについてどう思いますか。

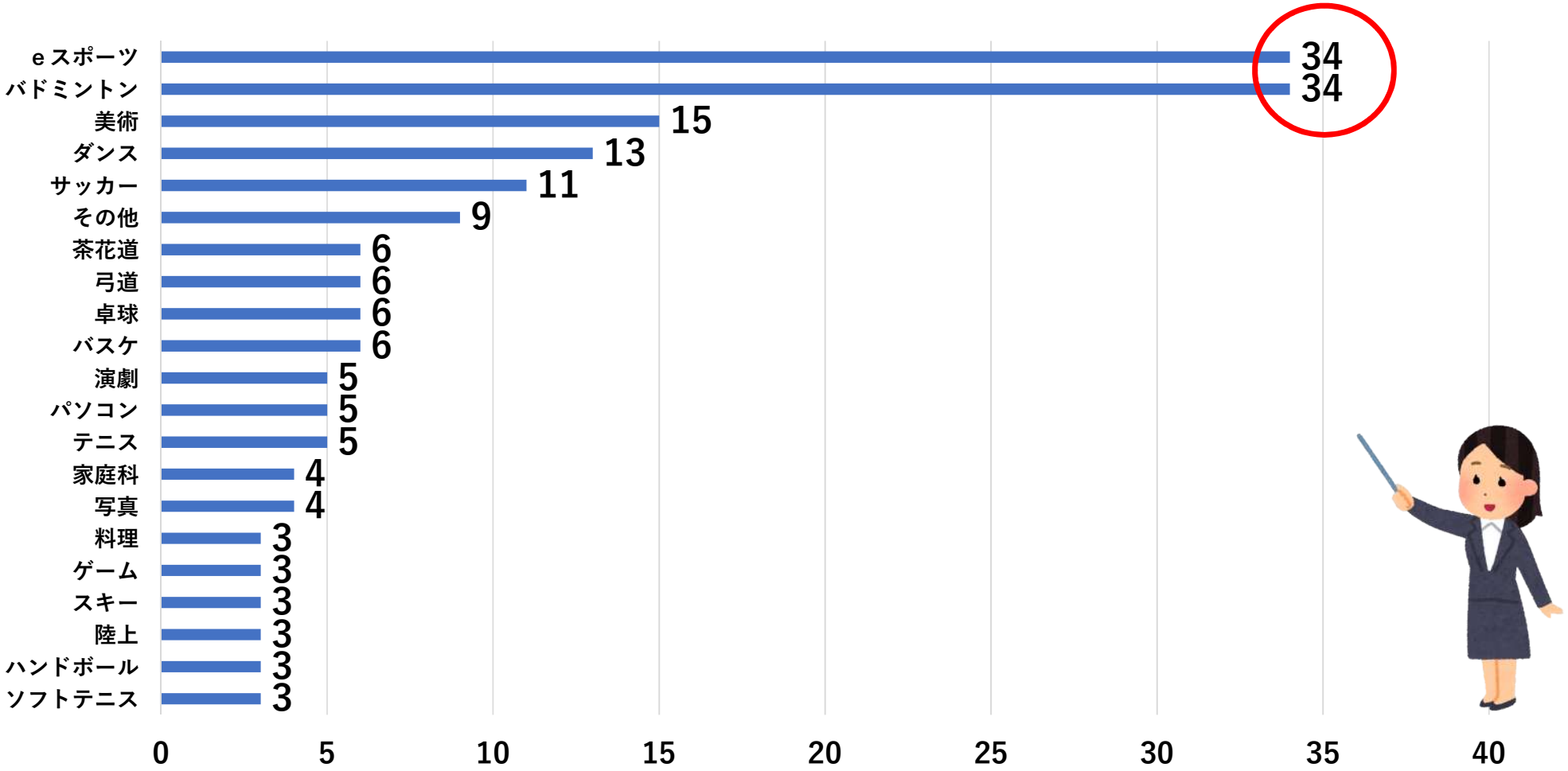


■例えば、北空知管内の学校で部活動の拠点を、種目ごとに分けることについてどう思いますか。

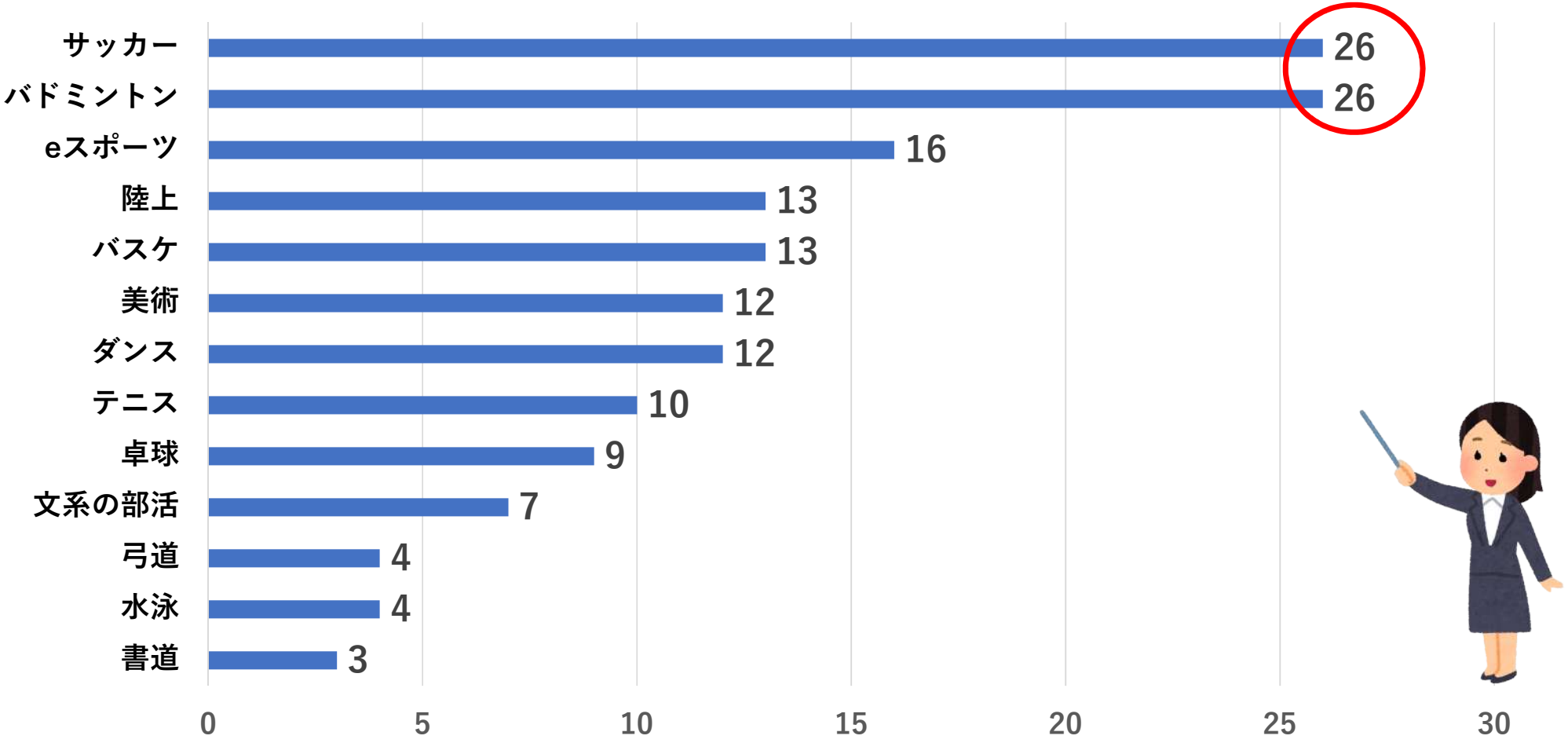
（保護者）



■部活動にどんな種目があったらよいですか。（複数可）　（中学生）



■部活動にどんな種目があったらよいですか。（複数可）　（保護者）



北空知の地域性

（１）農業（水稲・畑作・園芸・果樹園等）を中心とした農村地域
（２）冬は豪雪地帯、降雪で度々交通に影響も
（３）１市５町は、北空知平野の平坦な地域に市街地
（４）約２０kmの範囲内に北空知の全小中学校がある
（５）ＪＲ留萌線は、２０２６年３月末で全線廃止
（６）民間バス、タクシー会社は運転手不足。バス路線減便・再編
（７）合同部活動が増え、保護者が送迎できない家庭も多い
（８）急激な子どもの減少で
　　５年後に、小学生は２５％減、中学生は３０％減。
　　現在、１学年１７０～１９０人。
　　１０年後は、１学年１２０～１３０人の見込み
（９）各競技団体の成人スポーツ人口減少・高齢化

北空知広域連携による部活動に向けて

（１）北空知の人口規模で考えた場合、圏域で取り組むことを前提に進める。
（２）１０年、２０年先を見越した北空知の地域性、特性、資源、人材を活かした取り組み。
（３）地域移行は、子どもたちの環境整備（部活動を取り巻く環境変化の適応）のために行う。
（４）多様化するスポーツ・文化環境と働き方改革に対応。勝利至上主義から楽しむスポーツへ。

北空知が進むべき方向

（１）北空知圏域が協働で進める持続可能な部活動。
（青少年スポーツ・文化活動）
（２）北空知圏域の地域人材（教職員を含む）を活かした指導者の安定的な確保、育成。
（３）北空知圏域の青少年が、スポーツ・文化活動を通して豊かな人間性を育み、これからの社会を担う人材を育てる。

北空知部活動地域移行へ向けた推進体制図

北海道教育庁
空知教育局

北空知 全体協議会

北海道
スポーツ協会

各市町立中学校

スポーツ文化関連団体

各市町教育委員会

大学

民間企業

首長部局

地域協議会（1市5町）

深川市　妹背牛町　秩父別町　北竜町　沼田町　雨竜町

合意形成　**構成メンバー**　**合意形成**

市町立小中学校 ― PTA

スポーツ協会

教育委員会

部活動顧問・指導者

各競技団体

スポーツ推進委員

社会教育委員

首長部局企画担当

総合型ｽﾎﾟｰｸﾗﾌﾞ

少年団本部

地　域　住　民

各文化団体

単位団・ｸﾗﾌﾞ

北空知広域モデル

１．運営主体、マネジメント組織
①地域クラブ活動の運営主体とマネジメント
②関係団体との連携
③広域モデル（自走化）の全国的な好事例の収集

２．財源モデル
①地域クラブの維持・運営に必要なコストの積算
②収支構造と流れ
③自主財源、受益者負担、公的資金との適切なバランス
④経済的困窮世帯への参加費用負担支援とそのスキーム
⑤財政的支援等に賛同する応援企業登録制度の創設
⑥企業版ふるさと納税の事業位置づけ（北空知で統一）

３．指導者の確保
①地域指導者の量の確保と質の保障、
②地域クラブ活動を支える継続的な指導者依頼の仕組み
③地域クラブ活動の要件等の明確化
④外部人材（大学・企業・プロチーム等）の働きかけ
⑤学校教職員、自治体職員等の兼職兼業、ＩＣＴ活用
⑥指導者の報酬、謝金、交通費の積算

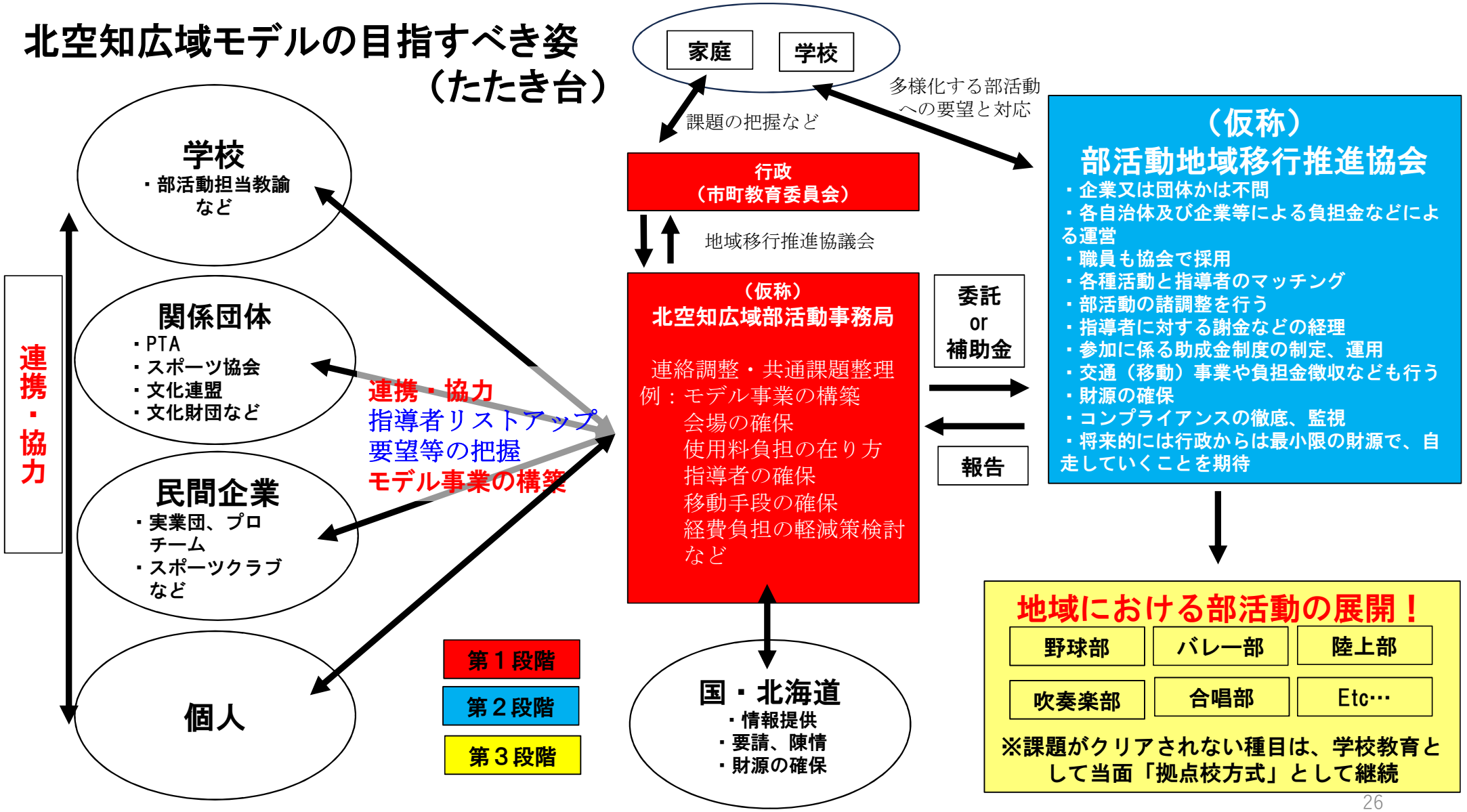
４．移動交通手段の確保
①交通事業者の確保（学校間バス・デマンドタクシー）
②ライドシェアや部活動Maasの事業性検証
③送迎ルート、乗車時間の設定
③公共交通利用に対する助成
④送迎収支のシミュレーション、採算性、受益者負担

５．拠点校方式等の導入
①生徒のニーズや意見等が反映された地域クラブ活動の拠点
②地理的条件を考慮した拠点
③学校施設だけに依らない拠点（公共施設の有効活用）

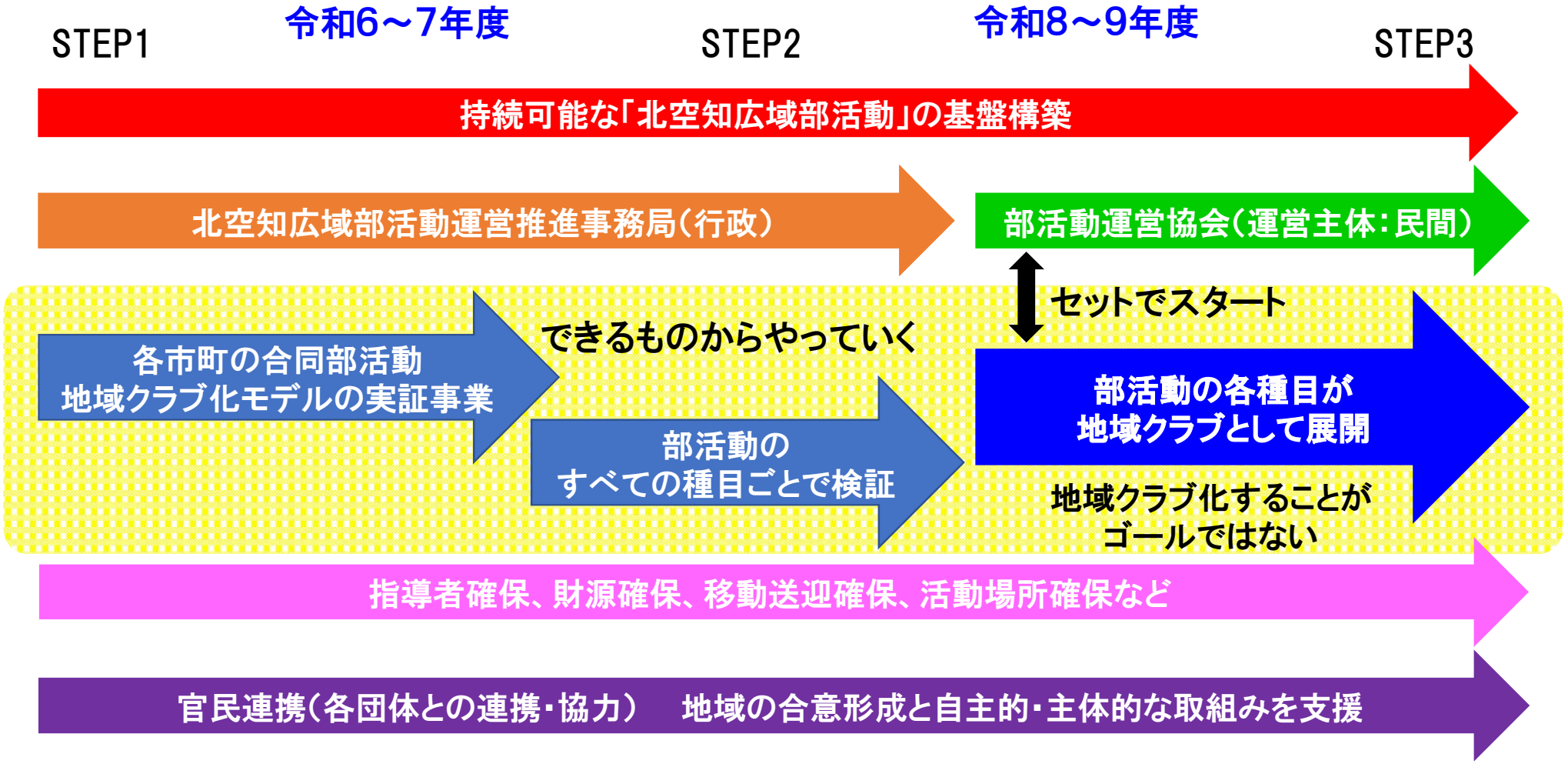
調査中

６．部活動サポートサービス
①民間事業者による地域クラブ運営委託
②民間事業者のシステム、アプリを活用した運用
③運営業務の効率化、低コスト化、アウトソーシング

北空知広域モデルの目指すべき姿（たたき台）



地域クラブ化に向けたステップ



長期休業中の部活動送迎 実証事業（実績）

１．実施期間

■中学校 冬休み（平日のみ）

令和６年１２月２４日（火）～令和７年１月１４日（火） うち９日間 延べ３３名送迎

①12/24（火）：５名（町営バス） ②12/25（水）：４名（町営バス） ③12/26（木）：２名（公 用 車）
④ 1/6（月）：５名（町営バス） ⑤ 1/7（火）：２名（公 用 車） ⑥ 1/8（水）：７名（町営バス）
⑦ 1/9（木）：２名（公 用 車） ⑧ 1/10（金）：１名（公 用 車） ⑨ 1/14（月）：５名（町営バス）

■中学校 春休み（平日のみ）

令和７年３月２５日（火）～４月４日（金） うち４日間 延べ ５名送迎

①3/25（火）：３名（公 用 車） ②3/26（水）：２名（公 用 車）
③3/27（木）：２名（公 用 車） ④3/28（金）：３名（公 用車 ）

２．対象者

沼田中学校生徒 ①バレー部（５名）、②バスケ部（２～３名）、③野球部（１～２名）

３．受益者負担

使用車両の平均燃費、往復の送迎距離、燃油の単価で算出した実費を負担
当日の乗車人数で均等割し、後日請求

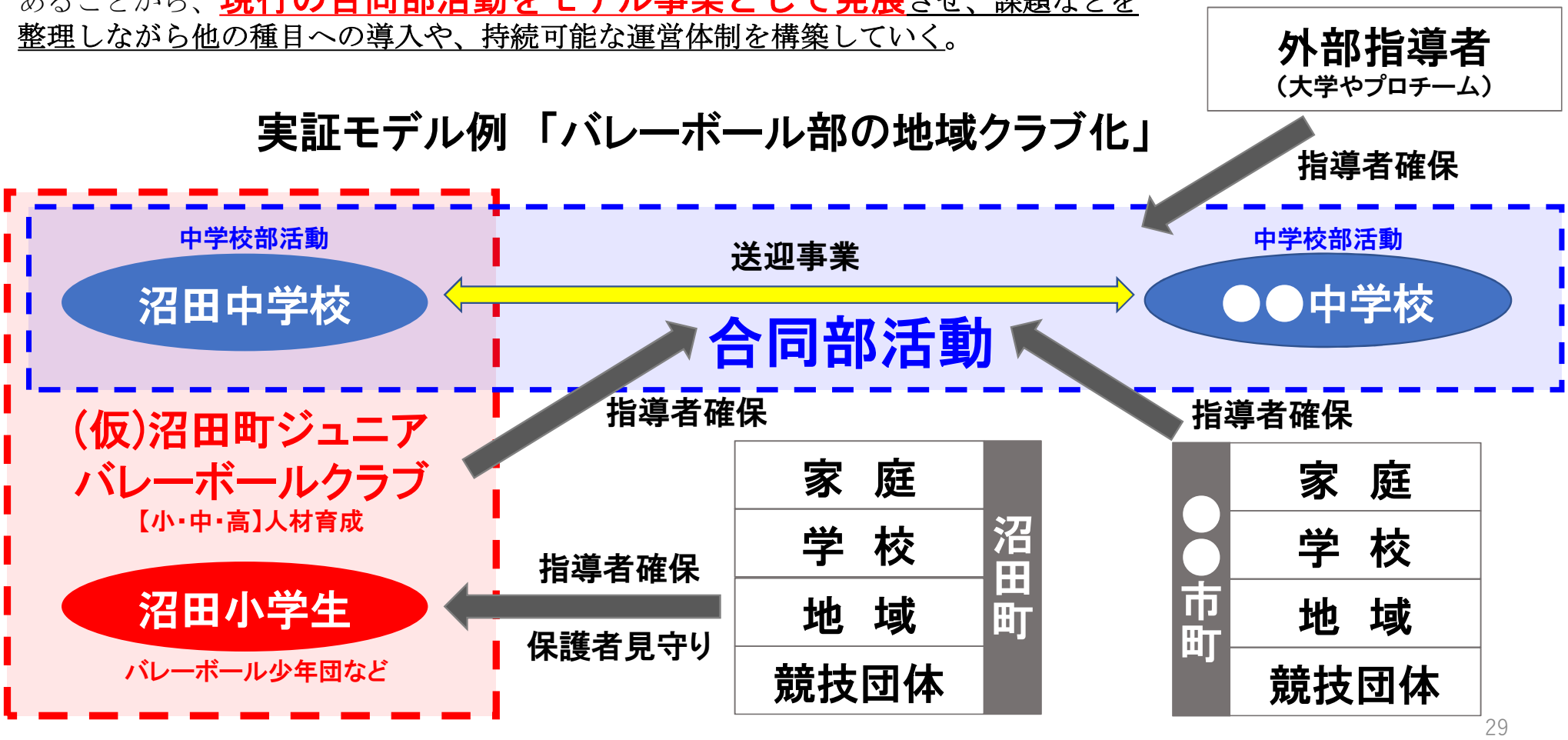
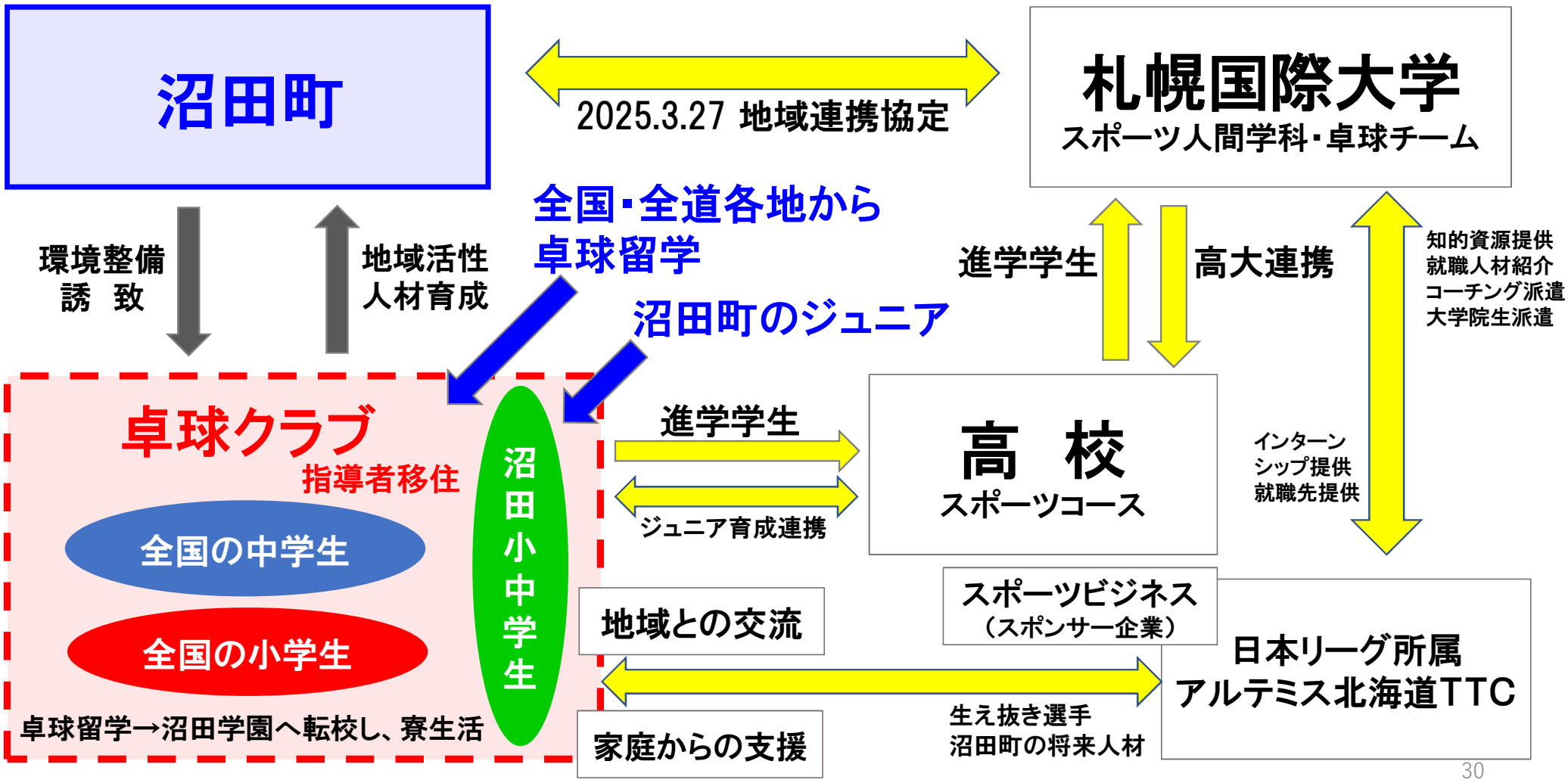
４．経路

・沼田中 ←→ 妹背牛中（バスケ）・トレセン（野球） ←→ 雨竜中（バレー）
沼田中 ←→ 北竜観光センター（野球） ←→ 妹背牛中（バスケ）

地域クラブ 実証モデル事業（検討素案）

組織体制の議論だけでは具体が進まず、また、一度に多くの種目の地域移行は困難であることから、**現行の合同部活動をモデル事業として発展**させ、課題などを整理しながら他の種目への導入や、持続可能な運営体制を構築していく。

実証モデル例 「バレーボール部の地域クラブ化」



地域クラブの検討例 「大学との連携」と「卓球クラブの誘致」